





「京都の広域避難者の 3年半を振り返って」

西山祐子さん

避難者と支援者を結ぶ京都ネットワーク みんなの手代表

テーマ:京都の広域避難者の3年半を振り返って 京都の 避難・移住者は1000名ほど。震災から3年半経ち、避 難者の状況やニーズも、そして避難者を支える行政や支援 団体の支援・受け入れ体制も徐々に変わってきている。こ れらを振り返り、避難者の今と未来を考えながら、どのよう に「寄り添えるのか」、話し合える場にしていきたい。 ①避 難者のニーズの変化 ②受入れ・支援体制 ③みんなの手 の活動 ④これからを考える

「札幌の避難者の現状 ~避難から移住へ、その試み~ |

宍戸隆子さん

札幌市内の自主避難者コミュニティ・桜会 代表

テーマ:長期化する避難の中で、何の解決策も提示され ないまま、社会の意識も、避難者の意識も少しずつ変わっ てきている。

原発事故による避難という「困難」を抱えて、私たち避難 者はどのような選択をしてきたのか、これから直面する問題 にどのように立ち向かっていくのか、皆さんと一緒に考えた いと思います。

トークセッション:広域連携で紡ぐ新たなつながり

西山祐子 (にしやま ゆうこ) 福島県福島市出身。仙台・東京で英 語講師、通訳等の仕事に従事。出産を機に福島市に戻り子育中、被災。 震災直後に東京へそして2011年6月に京都に3歳の娘と父母と避難。 2011年12月に「みんなの手」を発足。避難者への情報発信、ニー ズに合わせた支援活動、地域への発信や避難者と地域をつなぐ活動 などを行う。昨年、避難者の集い場・コミュニティ作りのためにカフェ をオープン。故郷への帰省バスの運行や福島の子どもたちのリフレッシ ュキャンプなども行う。現在、一般社団法人 みんなの手 代表理事。

宍戸隆子(ししど たかこ)1972年 福島県双葉郡富岡町生まれ 震災時は福島県伊達市に在住。避難指示区域外だったが、二人 の子どもたちの被曝を懸念し北海道へ自主的に避難。後に夫も合 流し、新しい生活を一から立て直し中。以後、自主避難者の立場 から、2011年12月の参議院復興特別委員会への参考人招致、 2012年ブラジルリオで行われた国際環境会議 Rio + 20、NGO キ ャンプへの参加など、積極的に発言している。札幌市内の自主避 難者コミュニティ代表。

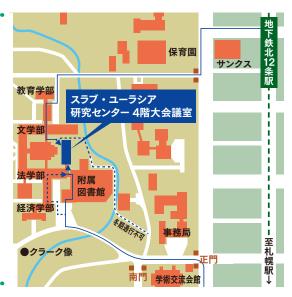
とき: **2014年12月7日**(日) 第24回 午後2時~4時

ところ:北海道大学

スラブ・ユーラシア研究センター

4階大会議室

(札幌市北区北9条西7丁目 札幌駅 北口から北大通りを北へ徒歩約5分。 北大正門から北大構内へ、付属図書 館から入り、表示案内板に従って渡り 廊下、そして法学部を経由して当セン ター 4階へお越しください)



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 家田研究室 お問い合わせ TEL **090-2813-4907** ieda@slav.hokudai.ac.jp 詳細は家田研究室HPの講座日程をご覧ください http://lets-think.com

北海道の自然と命のネットワーク

共催







12月7日(日)

第24回 午後2時~4時

トーク

広域連携で紡ぐ セッション 新たなつながり

字戸隆子さん 札幌市内の自主避難者 コミュニティ・桜会 代表

「札幌の避難者の現状 ~避難から移住へ、その試み~ |

西山祐子さん 一般社団法人 みんなの手 代表理事

「京都の広域避難者の3年半を振り返って」

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 家田研究室 お問い合わせ TEL **090-2813-4907** ieda@slav.hokudai.ac.jp

詳細は家田研究室HPの講座日程をご覧ください http://lets-think.com

北海道の自然と命のネットワーク 共催